

第2章 幸福実感指標の現状

この第2章では、「みえ県民力ビジョン」において設定した16の幸福実感指標に基づき質問した「地域や社会の状況についての実感」について、属性ごとのクロス集計、3年間の推移等による分析を行いました。

第1節 16の幸福実感指標の結果概要

1 幸福実感指標

幸福実感指標は「みえ県民力ビジョン行動計画」において、16の政策分野ごとに設定したもので、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

幸福実感指標とそれに関連する県の政策分野は以下のとおりです。

問2	幸福実感指標	関連する政策分野
(1)	災害等の危機への備えが進んでいると感じる県民の割合	危機管理
(2)	必要な医療サービスが利用できていると感じる県民の割合	命を守る
(3)	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じる県民の割合	暮らしを守る
(4)	必要な福祉サービスが利用できていると感じる県民の割合	共生の福祉社会
(5)	身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じる県民の割合	環境を守る持続可能な社会
(6)	一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じる県民の割合	人権の尊重と多様性を認め合う社会
(7)	子どものためになる教育が行われていると感じる県民の割合	教育の充実
(8)	地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合	子どもの育ちと子育て
(9)	スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じる県民の割合	スポーツの推進
(10)	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じる県民の割合	地域との連携
(11)	文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができると感じる県民の割合	文化と学び
(12)	三重県産の農林水産物を買いたいと感じる県民の割合	農林水産業
(13)	県内の産業活動が活発であると感じる県民の割合	強じんて多様な産業
(14)	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じる県民の割合	雇用の確保
(15)	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じる県民の割合	世界に開かれた三重
(16)	道路や公共交通機関等が整っていると感じる県民の割合	安心と活力を生み出す基盤

2 全体の状況(図表2-1-1 参照)

16の幸福実感指標についての今回調査結果、前回調査及び第1回調査結果との比較についての概要は次のとおりです。それぞれの項目の詳細については、次節において記載しています。

(1) 今回調査結果の概要

『実感している層』の割合を高い順に見ると、3番目までは次のようになっています。

- (12) 三重県産の農林水産物を買いたい(85.6%)
- (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい(72.4%)
- (3) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている(61.5%)

また、『実感していない層』の割合を高い順に見ると、3番目までは次のようになっています。

- (14) 働きやすい人が仕事に就き、必要な収入を得ている(65.2%)
- (6) 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている(60.3%)
- (1) 災害等の危機への備えが進んでいる(59.0%)

『実感している層』の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
 『実感していない層』の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

(2) 前回調査との比較

前回調査時よりも6項目で実感が高く()になっており、実感が低く()になっている項目はありません。

実感が高くなっている項目のうち、『実感している層』の割合の変化の幅が大きい順の3項目は次のとおりです。

- (15) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる(実感：+11.8ポイント)
- (13) 県内の産業活動が活発である(実感：+6.3ポイント)
- (7) 子どものためになる教育が行われている(実感：+3.8ポイント)

『実感が高く』・・・今回調査と前回調査との比較で、『実感している層』の割合が増えている、又は『実感していない層』の割合が減っており、統計的に有意な水準の差がある場合(危険率5%未満)

『実感が低く』・・・今回調査と前回調査との比較で、『実感している層』の割合が減っている、又は『実感していない層』の割合が増え、統計的に有意な水準の差がある場合(危険率5%未満)

(3) 第1回調査との比較

第1回調査時よりも13項目で実感が高く()になっており、1項目で実感が低く()になっていません。

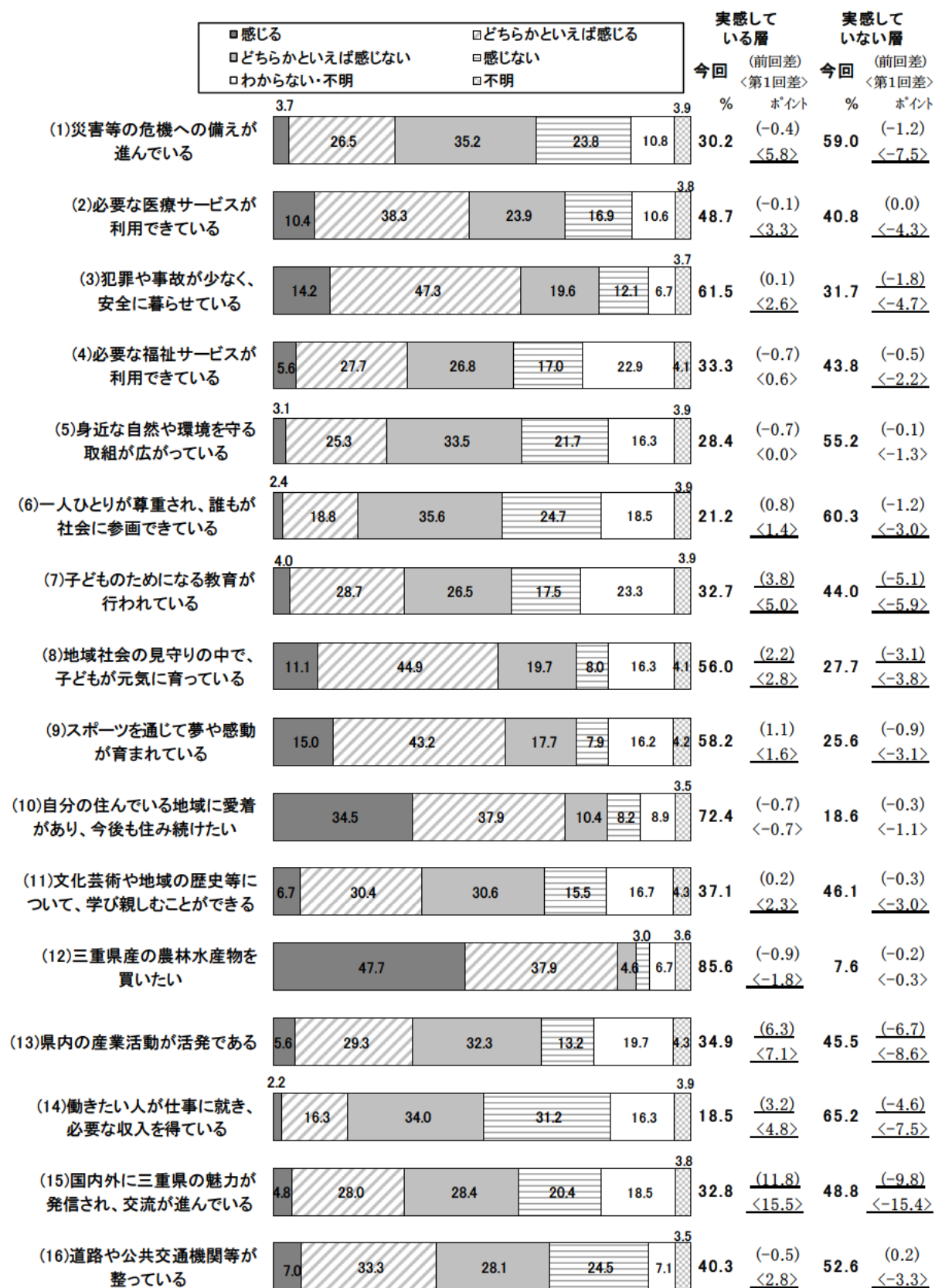
実感が高くなっている項目のうち、『実感している層』の割合の変化の幅が大きい順の3項目は次のとおりです。

- (15) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる(実感：+15.5ポイント)
- (13) 県内の産業活動が活発である(実感：+7.1ポイント)
- (1) 災害等の危機への備えが進んでいる(実感：+5.8ポイント)

『実感が高く』・・・今回調査と第1回調査との比較で、『実感している層』の割合が増えている、又は『実感していない層』の割合が減っており、統計的に有意な水準の差がある場合(危険率5%未満)

『実感が低く』・・・今回調査と第1回調査との比較で、『実感している層』の割合が減っている、又は『実感していない層』の割合が増え、統計的に有意な水準の差がある場合(危険率5%未満)

図表 2-1-1 地域や社会の状況についての実感(項目別)



(備考) (前回差) 及び<第1回差>の数値に下線を付けているのは、統計的に有意な水準(危険率5%未満)の場合です。

第2節 それぞれの幸福実感指標の現状

1 災害等の危機への備えが進んでいる（問2-1）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-1 参照）

- 『実感している層』は30.2%、『実感していない層』は59.0%です。
16項目中、『実感していない層』が3番目に高くなっています。
- 『実感していない層』が『実感している層』より28.8ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
東紀州 女性 70歳以上 専業主婦、無職 離死別 0～100万円	男性 20歳代、40～50歳代 正規職員 未婚 単独世帯、二世帯世帯 300～600万円

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-2 参照）

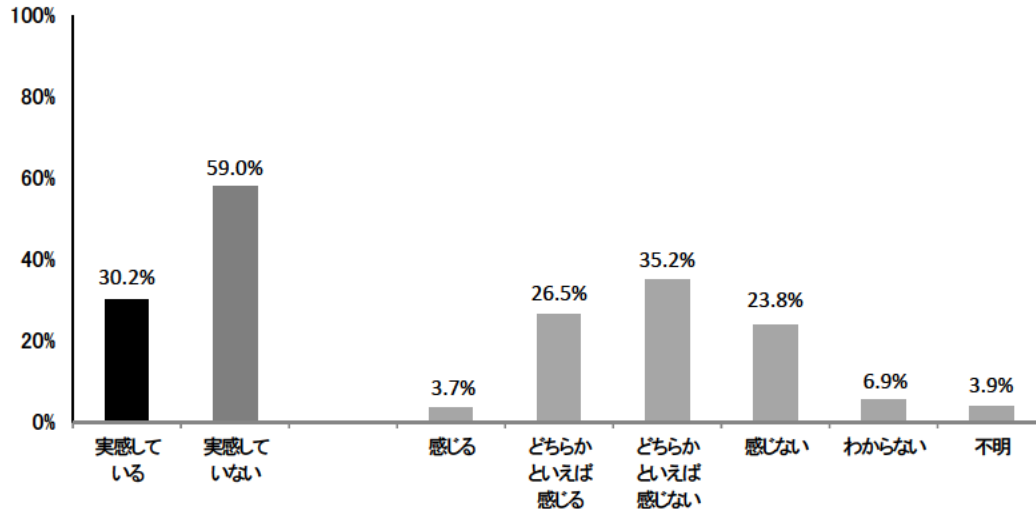
- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+5.8ポイント、『実感していない層』：-7.5ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
主婦	伊賀除く各地域 全性別 全年齢層 自営、正規、パート等、主婦、 無職 全配偶関係 全世帯類型	自営	

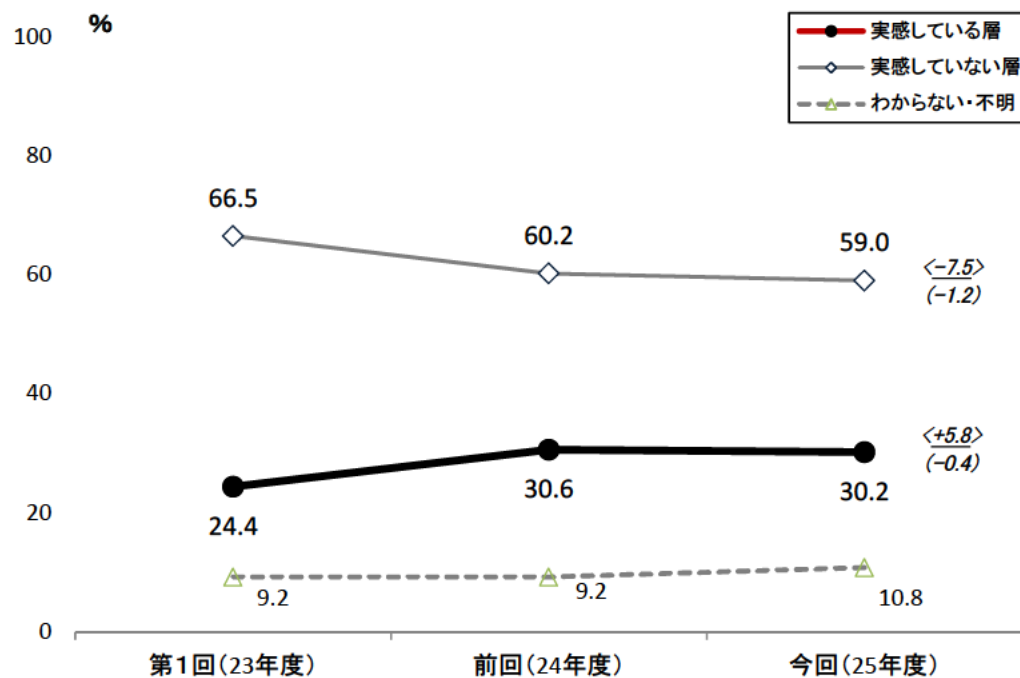
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査時よりも実感は高くなっていますが、依然として実感していない層が実感している層の2倍程度となっています。
- ・ 属性別に見ると、大半の属性で第1回調査時よりも実感は高くなっていますが、今回調査でも、性別、年齢、職業別などにより、実感している傾向の差が見られます。
- ・ 一方、「防災に関する県民意識調査」（平成25年度）では、東日本大震災発生後「時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」人が45.0%（全県）となっており、危機意識の低下が懸念されます。なお、津波危険地域（鳥羽市以南）では31.0%であり、地域による差も見られます。
- ・ これらを踏まえると、あらゆる機会を活用して、必要な情報をきめ細かに県民各層に届け、危機意識の低下を防ぎ、「協創」による地域防災力の向上などに取り組む必要があると考えられます。

図表 2-2-1 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（災害等の危機への備えが進んでいる）



図表 2-2-2 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(災害等への危機への備えが進んでいる)



【備考】

- 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前回差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

2 必要な医療サービスが利用できる（問2-2）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-3参照）

- 『実感している層』は48.7%、『実感していない層』は40.8%です。
- 『実感している層』が『実感していない層』より7.9ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
北勢、中南勢 70歳以上 農林水産業、学生、無職 0～100万円、1000万円～	伊賀、東紀州 40～50歳代 正規職員、パート・アルバイト・派遣 未婚 100～200万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-4参照）

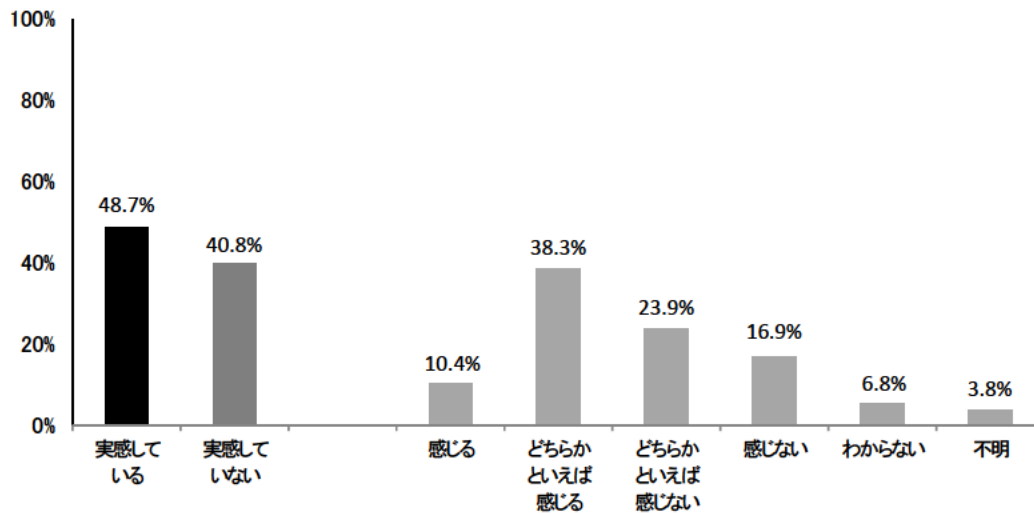
- 全体結果
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+3.3ポイント、『実感していない層』：-4.3ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
伊賀	東紀州除く各地域 全性別 30～40代、60代 パート等、主婦、無職 未婚、有配偶 一世代、二世代	中南勢	

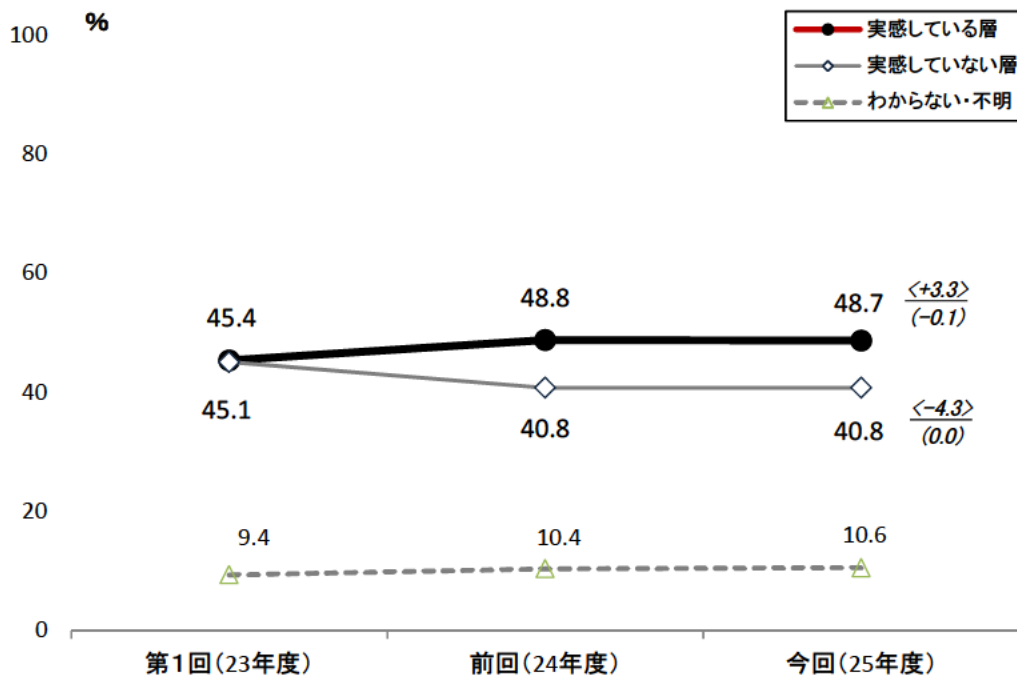
(3) 分析・考察

- ・ 県全体では、第1回調査時より実感が高くなっており、前回調査、今回調査とも実感している層が5割近くあり、実感していない層を8ポイント程度上回っています。
- ・ 属性別に見ても、多くの属性で第1回調査時よりも実感が高くなっていますが、依然として、地域や年齢等による差は見られます。
- ・ 今回調査における悩みの原因についての質問項目で「自分の健康状態」と回答する人の割合は、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向となっています（102頁）。40～50歳代が実感している傾向が弱く、70歳以上は強くなっていることについて、若年層は健康に不安が少なく、高齢層は実際に医療サービスを利用しているのに対して、40～50歳代では、健康状態に不安を持ちながら、医療サービスを利用するほどではないという可能性も考えられます。
- ・ 地域による差については、伊賀地域と東紀州地域では、人口10万人当たりの医師数が県平均に比べて少ない（厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」（平成22年12月31日現在）：人口10万人当たり医療施設従事医師数）という調査結果もあり、医師不足への不安感が影響している可能性があります。引き続き、医師の不足・偏在解消に向けての取組が必要と考えられます。

図表 2-2-3 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（必要な医療サービスが利用できる）



図表 2-2-4 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(必要な医療サービスが利用できる)



【備考】

- 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前回差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

3 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている（問2-3）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-5 参照）

- 『実感している層』は61.5%、『実感していない層』は31.7%です。
16項目中、『実感している層』が3番目に高くなっています。
- 『実感している層』が『実感していない層』より29.8ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
伊勢志摩、東紀州 60歳以上 農林水産業、無職 三世代世帯 500～600万円、1000万円～	北勢 20～40歳代 正規職員、パート・アルバイト・派遣 ～200万円

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-6 参照）

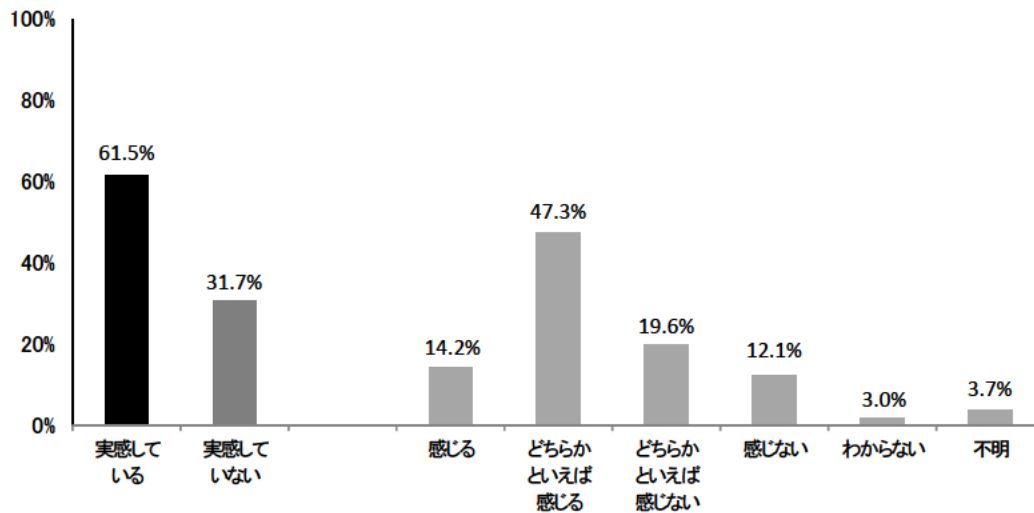
- 全体結果
 - ・ 前回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感していない層』-1.8ポイント）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+2.6ポイント、『実感していない層』：-4.7ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
中南勢、伊勢志摩 60代 無職	北勢、中南勢、伊勢志摩 全性別 50以上 自営、パート等、主婦、無職 全配偶関係 一世代、二世代、三世代	北勢	20代

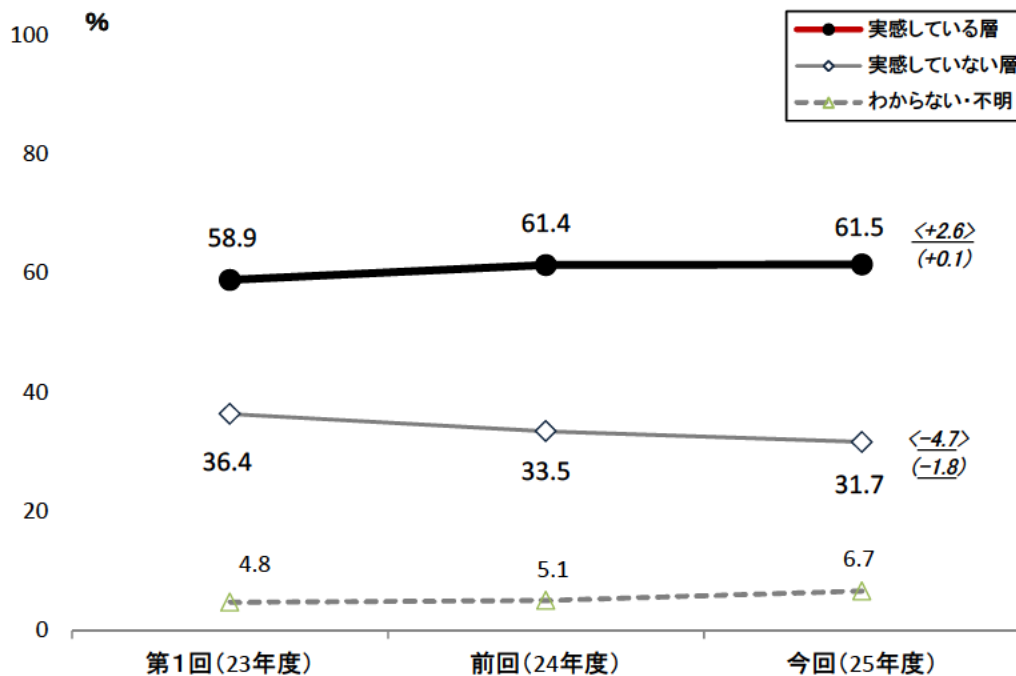
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査から実感している層が実感していない層を大きく上回っていましたが、第1回調査時及び前回調査時より実感が高まっており、県全体として、実感している層が実感していない層を30ポイント程度上回っています。
- ・ 属性別に見ると、地域、年齢などによる差は見られますが、実感している傾向が弱い属性についても、実感している層が5割を超えています。
- ・ 地域別の差については、刑法犯の認知件数、交通事故の発生件数の地域別の比率の高低と類似しており、それらと関連している可能性があります。また、北勢地域で前回調査よりも実感が低くなっているのは、北勢地域での昨年8月の強盗殺人等事件や今年1月の工場爆発事故などが関連している可能性もあります。

図表 2-2-5 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている）



図表 2-2-6 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 7 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前回差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

4 必要な福祉サービスが利用できている（問2-4）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-7参照）

- 『実感している層』は33.3%、『実感していない層』は43.8%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』より10.5ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
伊勢志摩、東紀州 60歳以上 農林水産業、学生、専業主婦、無職 三世帯世帯 0～100万円	20～50歳代 正規職員、パート・アルバイト・派遣 未婚 600～1000万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-8参照）

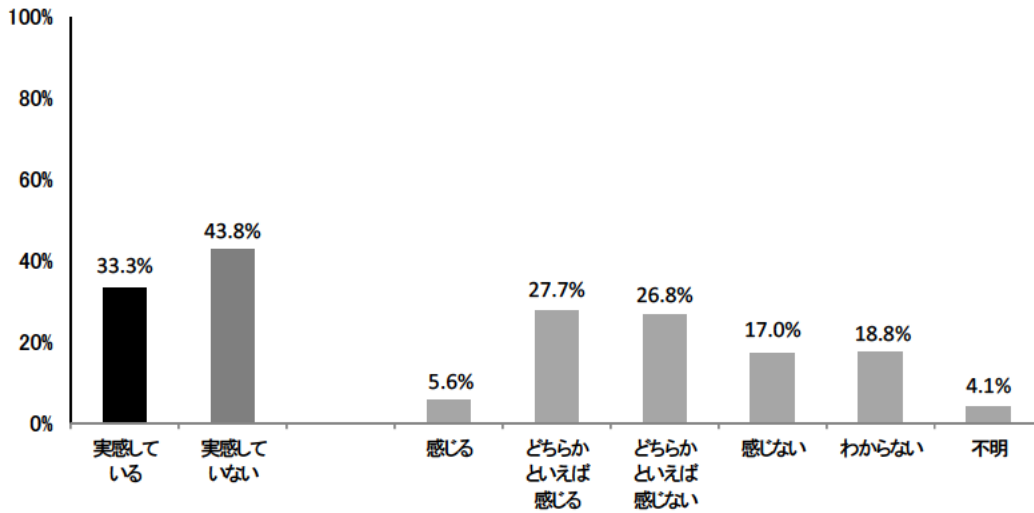
- 全体結果
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感していない層』：-2.2ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
30代 正規職員 三世帯	伊勢志摩 男性 60代 無職 一世帯	70以上 農林水産業 一世帯	

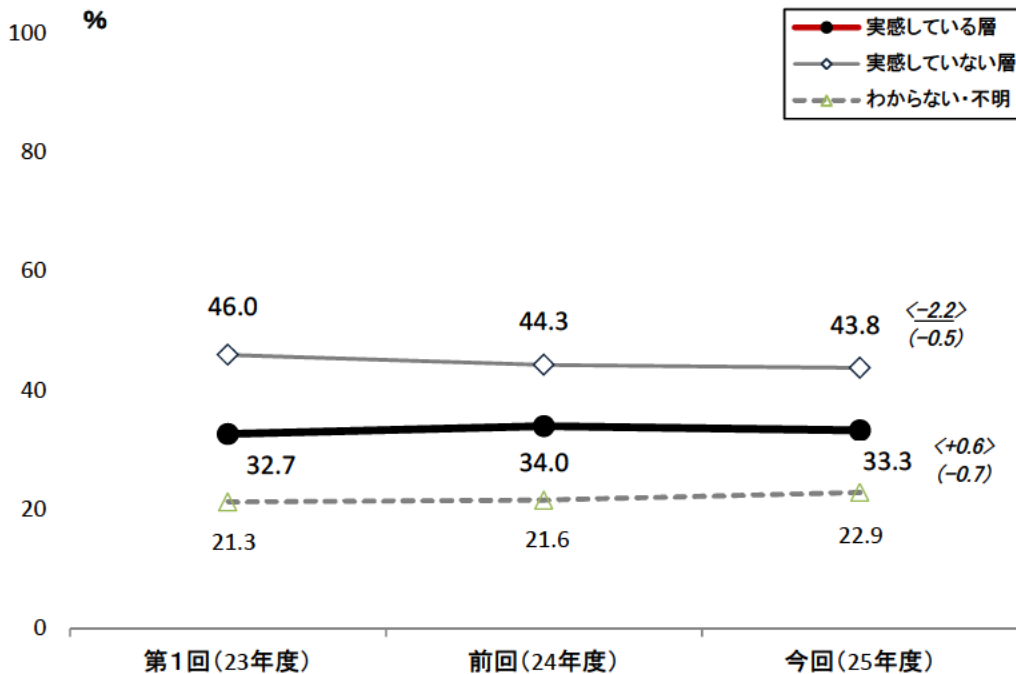
(3) 分析・考察

- ・ 県全体として、第1回調査時よりも実感が高くなっていますが、大きな変化はなく、実感していない層が実感している層を10ポイント程度上回っています。また、わからない・不明が3回とも2割強の比率となっています。
- ・ 属性別の特徴を見ると、福祉サービスの受け手が多く含まれると想定される60歳以上、無職、世帯収入100万円未満では実感している傾向が強くなっています。年齢別では、20～50歳代の幅広い年代で実感している傾向が弱くなっていますが、詳細に見ると、20～30歳代では、わからない・不明が3割程度と高くなっているのに対し、40～50歳では実感していない層が5割前後の高い比率となっています。
- ・ 60歳以上の高齢者、無職、世帯収入100万円未満の低所得者層において、県全体よりも相対的に実感が強くなっています。特に70歳以上、無職では実感している層が実感していない層を上回っており、現在、福祉サービスが必要かどうかで感じ方や回答の傾向が異なっている可能性があります。
- ・ 一方、40～50歳代では実感していない層が5割を超えているということは、介護サービスの現状に対する不満、将来に対する不安である可能性があります。
- ・ それらを踏まえると、現在、福祉サービスが必要な方に対して適切な対応を図ることに加えて、現時点では当事者ではない方に対しての不安解消や社会全体に福祉サービスに対する理解を求めるための啓発的な取組も考えられます。

図表 2-2-7 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（必要な福祉サービスが利用できる）



図表 2-2-8 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(必要な福祉サービスが利用できる)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 7 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前回は、< >内は対第1回は差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

5 身近な自然や環境を守る取組が広がっている（問2-5）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-9 参照）

- 『実感している層』は28.4%、『実感していない層』は55.2%です。
16項目中、『実感している層』が3番目に低くなっています。
- 『実感していない層』が『実感している層』の割合より26.8ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
女性 70歳以上 学生、無職 離死別 0～100万円	男性 20歳代、40～60歳代 正規職員 未婚 単独世帯

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-10 参照）

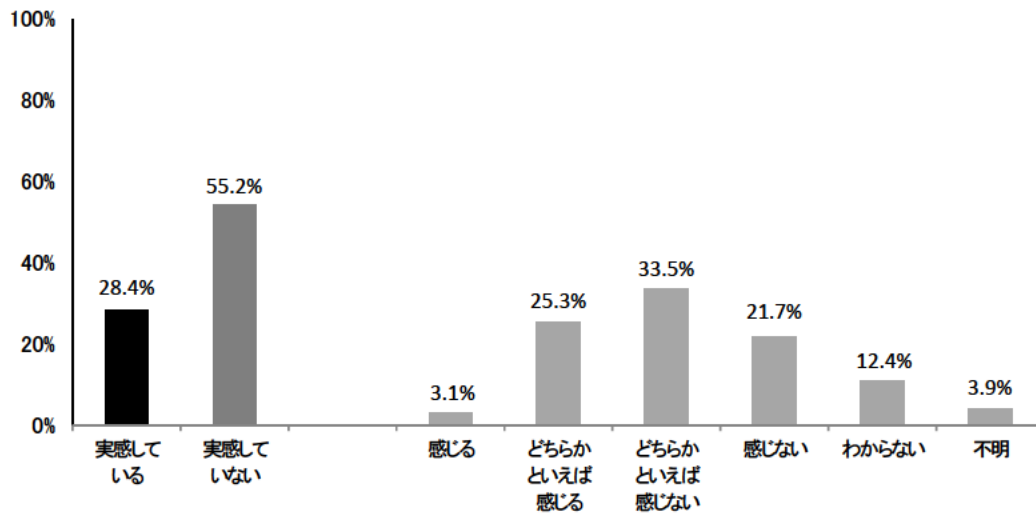
- 全体結果
 - ・ 前回調査時、第1回調査時との比較では、統計的に有意な差が認められません。
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
北勢	北勢、東紀州 男性 30代、70以上 一世代	伊勢志摩 専業主婦	20代 三世代

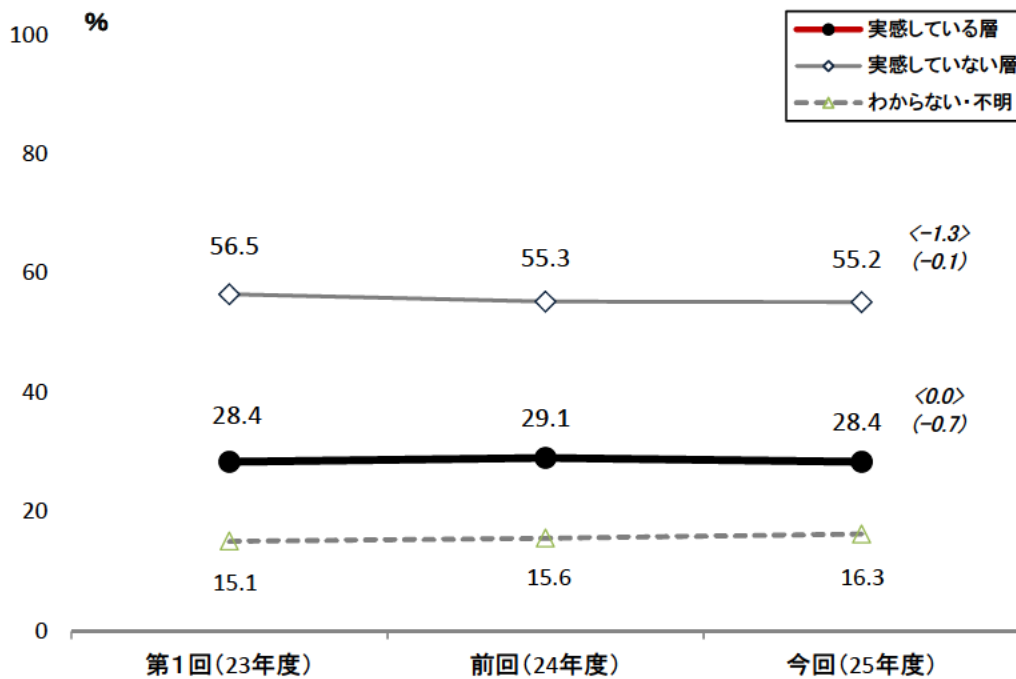
(3) 分析・考察

- ・ 第1回、前回、今回ともほぼ同様の結果であり、実感していない層が実感している層の倍程度となっています。
- ・ 属性別の特徴についても、他の指標でも見受けられる属性が多く、この指標の特徴ではない可能性があります。
- ・ 一方、「環境保全の活動への参加状況」とのクロス集計(84頁)では、実感している層の参加経験率が47.0%に対して、実感していない層の参加経験率は37.5%となっており、関係する活動への参加により実感が高くなる可能性があります。
- ・ より多くの県民が環境保全活動に参加していただけるよう、身近な環境や自然を守る取組に参加しやすい仕組みづくりなどの取組が考えられます。

図表 2-2-9 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（身近な自然や環境を守る取組が広がっている）



図表 2-2-10 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(身近な自然や環境を守る取組が広がっている)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 7 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前回は差、< >内は対第1回は差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

6 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている（問2-6）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-11 参照）

- 『実感している層』は21.2%、『実感していない層』は60.3%です。
16項目中、『実感している層』が2番目に低くなっています。
16項目中、『実感していない層』の割合が2番目に高くなっています。
- 『実感していない層』が『実感している層』より39.1ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
70歳以上 農林水産業、学生、無職 単独世帯 0～100万円、400～500万円	男性 50～60歳代 正規職員、パート・アルバイト・派遣 離死別 300～400万円、600～800万円

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-12 参照）

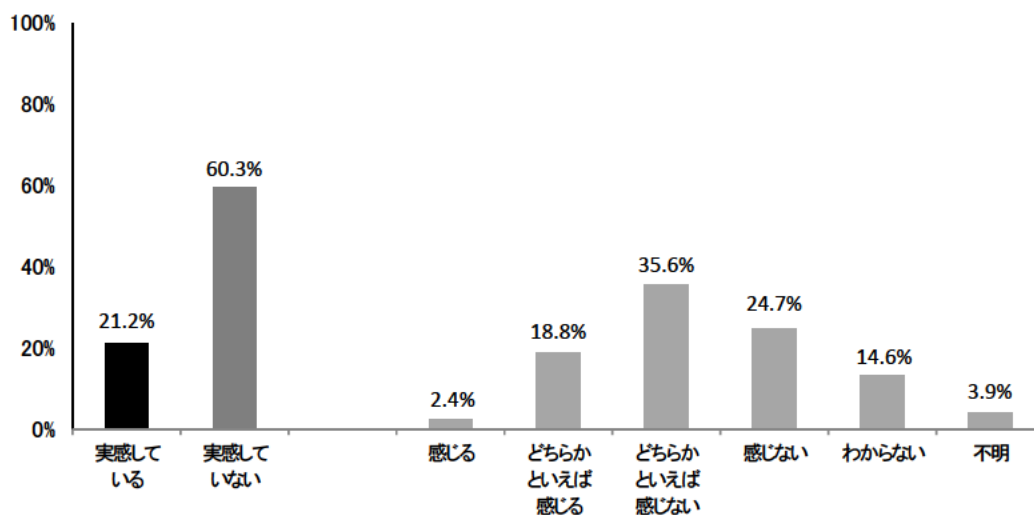
- 全体結果
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+1.4ポイント、『実感していない層』：-3.0ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
北勢 男性 40代 学生 未婚 三世代	北勢 全性別 40代 正規、パート等 未婚、有配偶 単独、二世帯		三世代

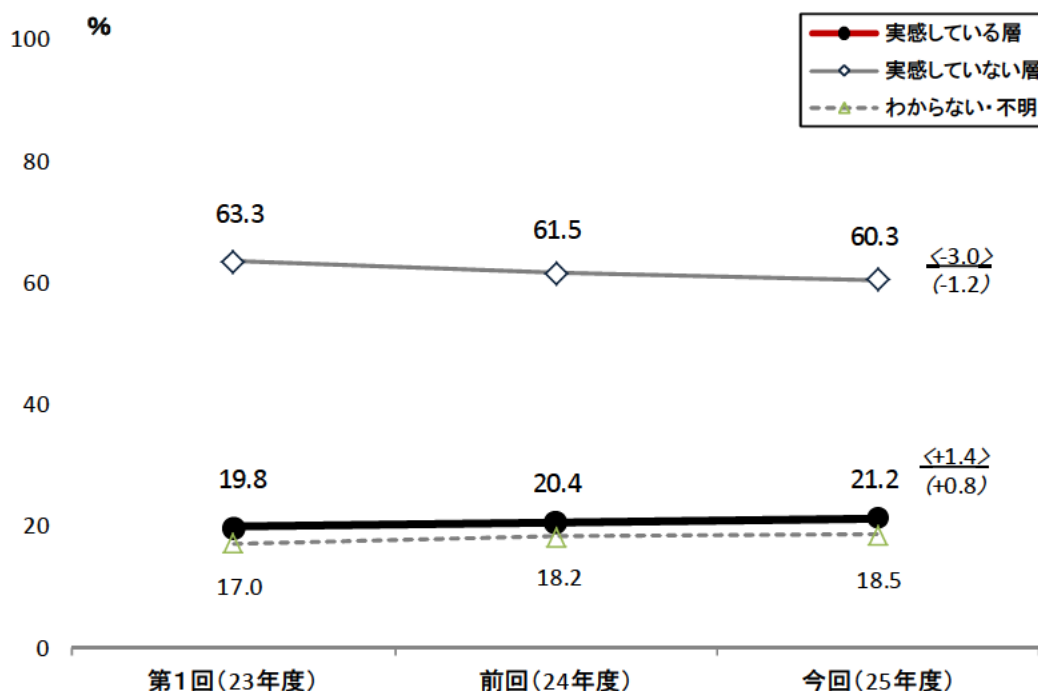
(3) 分析・考察

- ・ 県全体では、実感していない層が実感している層の3倍近くとなっていますが、第1回調査時よりも実感は高くなっています。
- ・ 第1回調査時からの推移を属性別に見ても、一定の属性項目で実感が高くなっており、実感が低くなっている属性項目はほとんどありません。
- ・ 他の幸福実感指標に比べると、回答者によって対象として想定する内容の幅が広く実感が低くなっている可能性もありますが、着実に実感は高くなっており、継続的な取組が必要と考えられます。

図表 2-2-11 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている）



図表 2-2-12 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 7 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前年度差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

7 子どものためになる教育が行われている（問2-7）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-13 参照）

- 『実感している層』は32.7%、『実感していない層』は44.0%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも11.3ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
女性 30～40歳代、70歳以上 農林水産業、専業主婦、無職 離死別 単独世帯(非実感層が低い)、二世帯世帯 0～100万円(非実感層が低い)、500～600万円、 800～1000万円	男性 20歳代、40～60歳代 自営業、正規職員、パート・アルバイト・派遣 未婚 単独世帯(実感層が低い) 0～200万円(実感層が低い)、1000万円以上

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-14 参照）

- 全体結果
 - ・ 前回調査時よりも、実感が高くなっています。
 (『実感している層』: +3.8ポイント、『実感していない層』: -5.1ポイント)
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
 (『実感している層』: +5.0ポイント、『実感していない層』: -5.9ポイント)
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

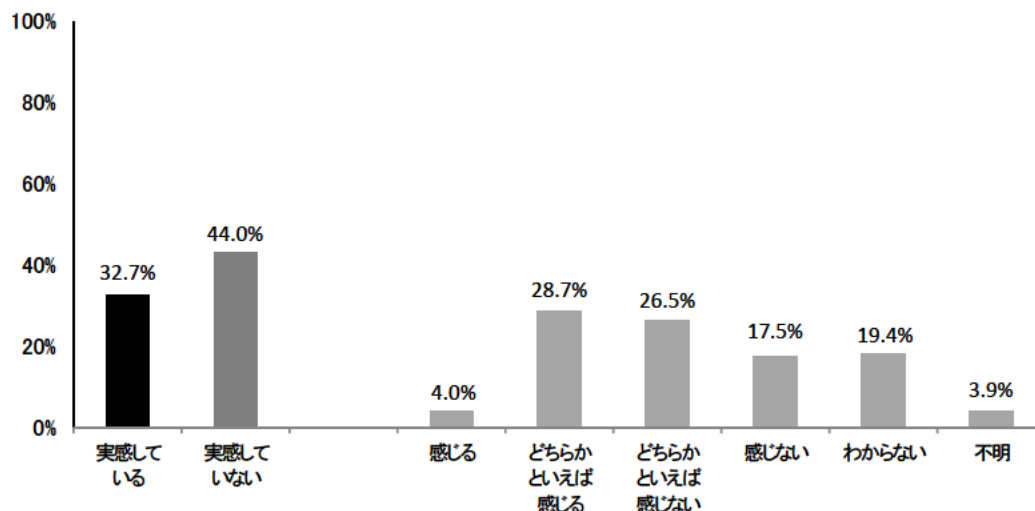
実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
北勢、中南勢、伊勢志摩 全性別 30～50代、70以上 正規、パート等、主婦、無職 全配偶関係 単独、二世帯、三世帯	北勢、中南勢、伊勢志摩 全性別 30以上 正規、パート等、無職 全配偶関係 単独、一世代、二世帯		

(3) 分析・考察

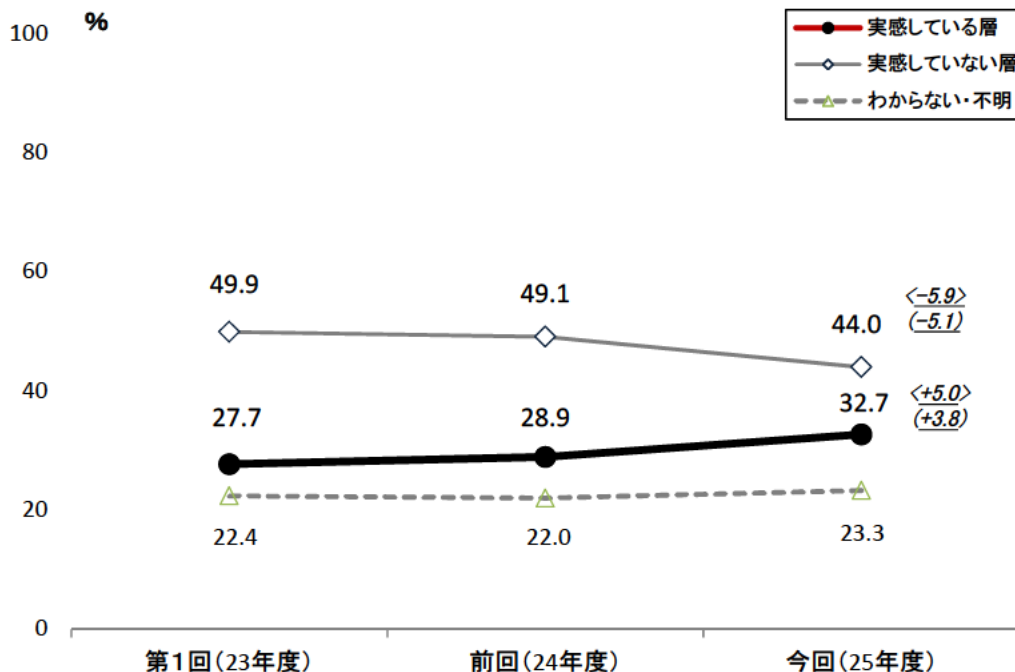
- ・ 第1回調査時、前回調査時よりも実感が高くなっており、実感している層と実感していない層の差は小さくなっています。第1回調査では実感していない層が実感している層を20ポイント以上上回っていましたが、今回調査での差は10ポイント強となっています。また、わからない・不明という回答が3回とも20%強となっています。
- ・ 属性別に第1回からの推移を見ると、多くの属性で実感が高まり、実感が低くなっている属性はありません。また、子どもが学校に在籍している方を対象に分析(※)すると、小学生、中学生、高校生いずれの区分でも、県全体より実感している層の割合が高くなっており、特に小学生では5割以上が実感している層となっています。
- ・ 県教育委員会が実施した「学校生活についてのアンケート（県内の公立小学校5年生、中学校2年生、高等学校2年生が対象）」において、学校に満足している子どもたちの割合が平成24年度の78.7%から平成25年度は80.4%と増加しており、このことが、実感が高くなった要因の一つと考えられます。
- ・ 実感している層が増加しているものの、実感していない層が実感している層を上回っているため、引き続き、学校・家庭・地域が一体となり、様々な主体による教育への取組を進めることが必要と考えられます。

(※) 小学生の子がいる(実感:51.5%、非実感:40.3%) 中学生の子がいる(実感:46.0%、非実感:45.8%)
 高校生の子がいる(実感:36.7%、非実感:52.8%)

図表 2-2-13 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（子どものためになる教育が行われている）



図表 2-2-14 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(子どものためになる教育が行われている)



【備考】

- 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前回差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

8 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている（問2-8）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-15 参照）

- 『実感している層』は56.0%、『実感していない層』は27.7%です。
- 『実感している層』が『実感していない層』よりも28.3ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
女性 70歳以上 農林水産業、専業主婦、無職 有配偶、離死別 三世帯世帯 0～100万円(非実感層が低い)、400～500万円	男性 20歳代、50歳代 正規職員 未婚 単独世帯、二世帯世帯 0～100万円(実感層が低い)、600～800万円、 1000万円～

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-16 参照）

- 全体結果
 - ・ 前回調査時よりも、実感が高くなっています。
 (『実感している層』: +2.2ポイント、『実感していない層』: -3.1ポイント)
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
 (『実感している層』: +2.8ポイント、『実感していない層』: -3.8ポイント)
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

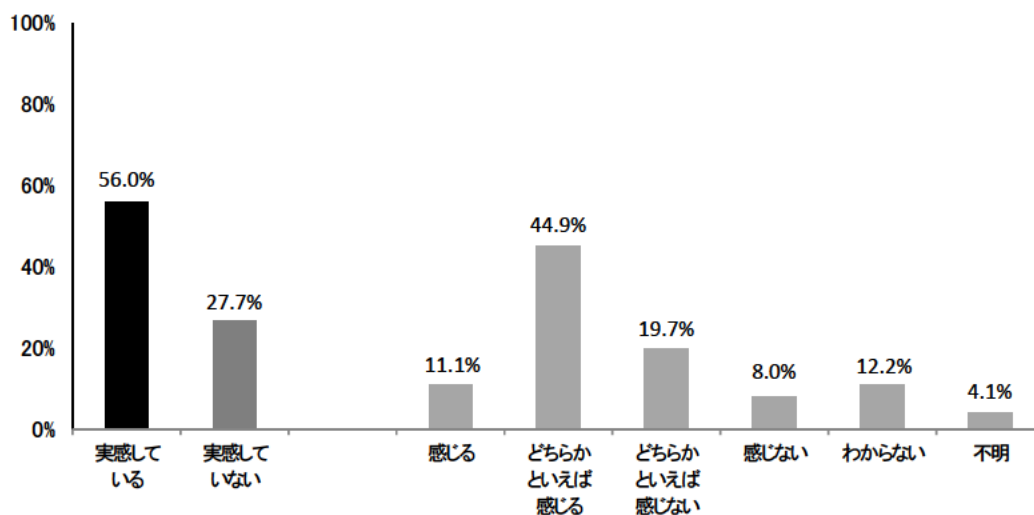
実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
北勢、中南勢	北勢、中南勢		
全性別	全性別		
40～50代、70以上	40以上		
農林水産、正規、無職	自営、正規、パート等、無職		学生
有配偶、離死別	有配偶、離死別		
一世帯、二世帯、三世帯	一世帯、二世帯		

(3) 分析・考察

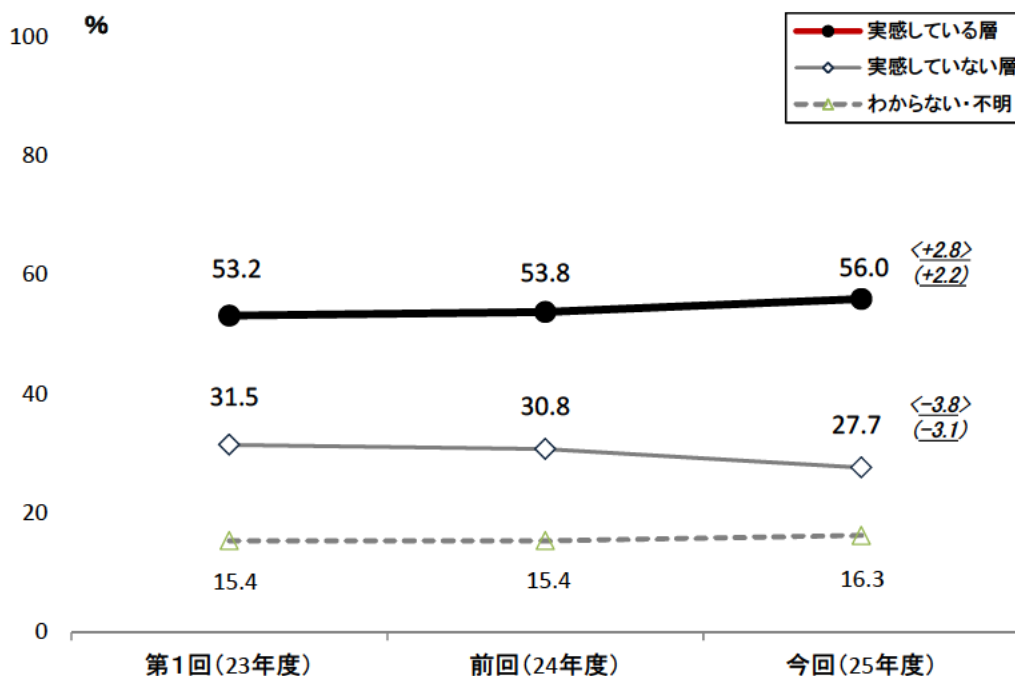
- ・ 第1回調査から実感している層が実感していない層を大きく上回っていましたが、今回調査では、第1回調査時、前回調査時よりも実感が高くなっており、県全体では、実感している層が実感していない層の倍程度となっています。
- ・ 属性別に見ても、第1回調査時、前回調査時よりも多くの属性で実感が高くなっています。
- ・ 今回調査結果における属性による特徴を見ると、男性、20歳代、50歳代、正規職員、単独世帯、未婚など地域社会との関わりが薄いと想定される層で実感している傾向が弱くなっている可能性があります。なお、子どもの有無による分析(※)では、就学前、小学生、中学生いずれにおいても県全体よりも実感している層の割合が高くなっています。
- ・ 子どもがいる方だけではなく幅広い層での実感を高めていくためにも、引き続き、少子化対策の総合的な推進、児童虐待防止対策の充実などに取り組むことは必要と考えられます。

(※) 就学前の子がいる (実感:64.4%、非実感:29.4%) 小学生の子がいる (実感:69.9%、非実感:25.2%)
 中学生の子がいる (実感:69.3%、非実感:26.6%)

図表 2-2-15 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている）



図表 2-2-16 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている)



【備考】

- 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前年度差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

9 スポーツを通じて夢や感動が育まれている（問2-9）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-17 参照）

- 『実感している層』は58.2%、『実感していない層』は25.6%です。
16項目中、『実感していない層』が3番目に低くなっています。
- 『実感している層』が『実感していない層』より32.6ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
女性 20歳代、40歳代 正規職員(実感層が高い)、パート・バイト・派遣、学生、専業主婦 二世帯世帯、三世帯世帯 500～1000万円	男性 60歳以上 正規職員(非実感層が高い)、無職 単独世帯 0～200万円

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-18 参照）

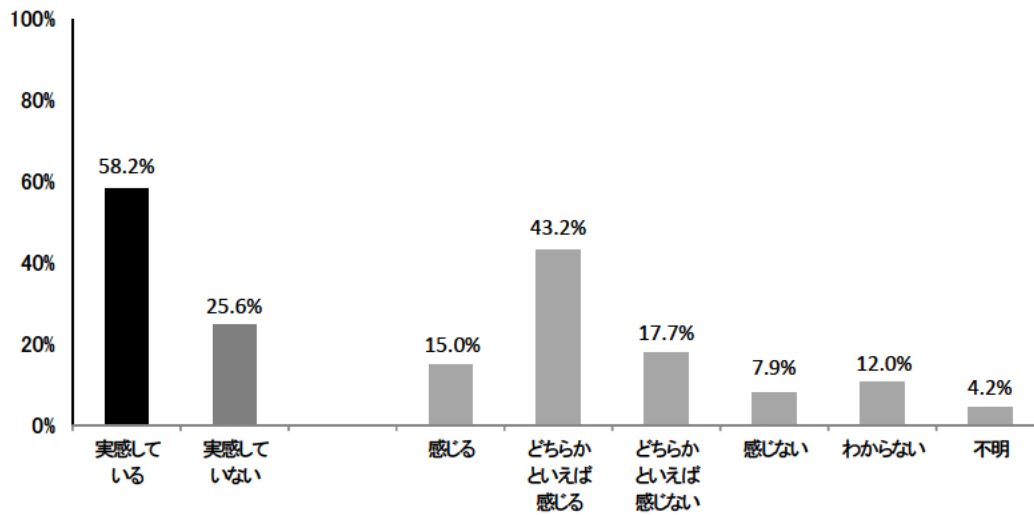
- 全体結果
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+1.6ポイント、『実感していない層』：-3.1ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
40代 離死別 二世帯	北勢、伊賀、中南勢 全性別 40～60代 農林水産、パート等、主婦 有配偶、離死別 一世代、二世帯	自営	

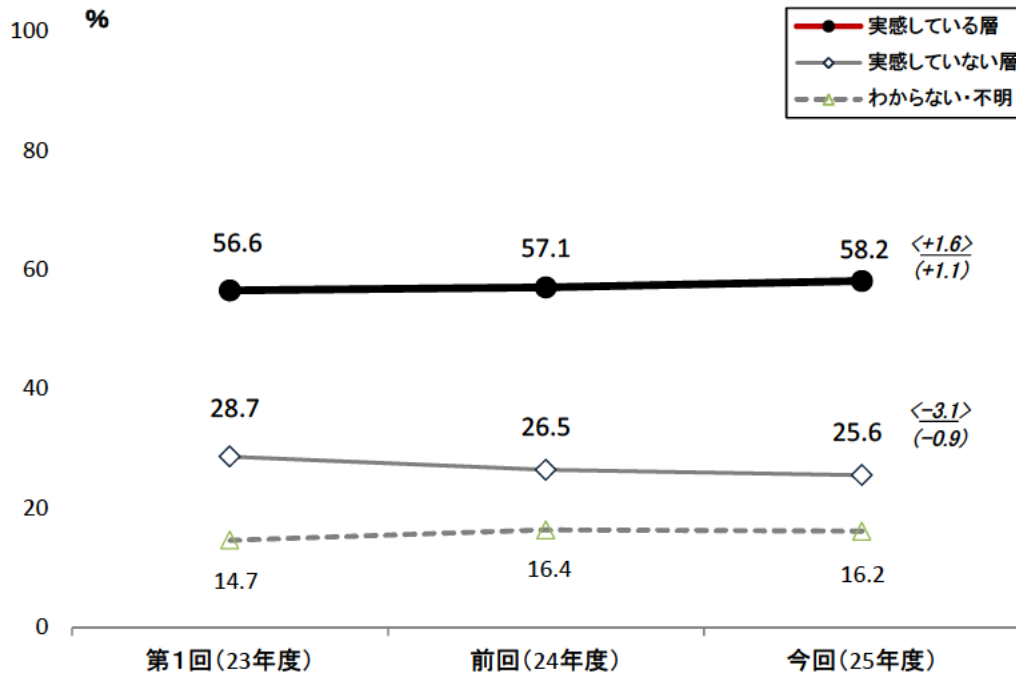
(3) 分析・考察

- ・ 県全体では、第1回調査、前回調査、今回調査とも実感している層が実感していない層を大きく上回っており、第1回調査よりも実感が高まっています。
- ・ 属性別に見ると、第1回調査よりも多くの属性で実感が高くなっています。また、年齢別では他の項目とは異なる傾向があり、若年層で実感している傾向が強く、高年齢層では弱くなっています。特に、20歳代では「感じる」が28.8%、学生では「感じる」が36.0%と高い割合になっています。
- ・ 若年層で実感している傾向が強いことについては、平成23年度社会生活基本調査におけるスポーツの行動者率についても年齢が高くなるにつれて概ね率が低下していること、また、「運動・スポーツ活動への参加状況」とのクロス集計（84頁）では、実感している層の参加経験率が43.8%に対して、実感していない層の参加経験率は33.3%となっていることから、実際にスポーツを実施しているかどうかの実感に影響している可能性があります。
- ・ 一方、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催決定（25年秋）などの全国的な状況や平成33年の国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の三重県開催に向けての動きなどにより、幅広い層で実感が高くなっている可能性があります。
- ・ これらのことから、スポーツを実践している人もしない人も含めて、スポーツを「する」「みる」「支える」といった取組を進めることは重要と考えられます。

図表 2-2-17 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（スポーツを通じて夢や感動が育まれている）



図表 2-2-18 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(スポーツを通じて夢や感動が育まれている)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 7 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい（問2-10）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-19 参照）

- 『実感している層』は72.4%、『実感していない層』は18.6%です。
16項目中、『実感している層』の割合が2番目に高くなっています。
16項目中、『実感していない層』の割合が2番目に低くなっています。
- 『実感している層』が『実感していない層』よりも53.8ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
男性 70歳以上 農林水産業、正規職員、無職 三世帯世帯 1000万円～	20歳代、50歳代 パート・バイト・派遣、専業主婦 単独世帯 0～200万円

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-20 参照）

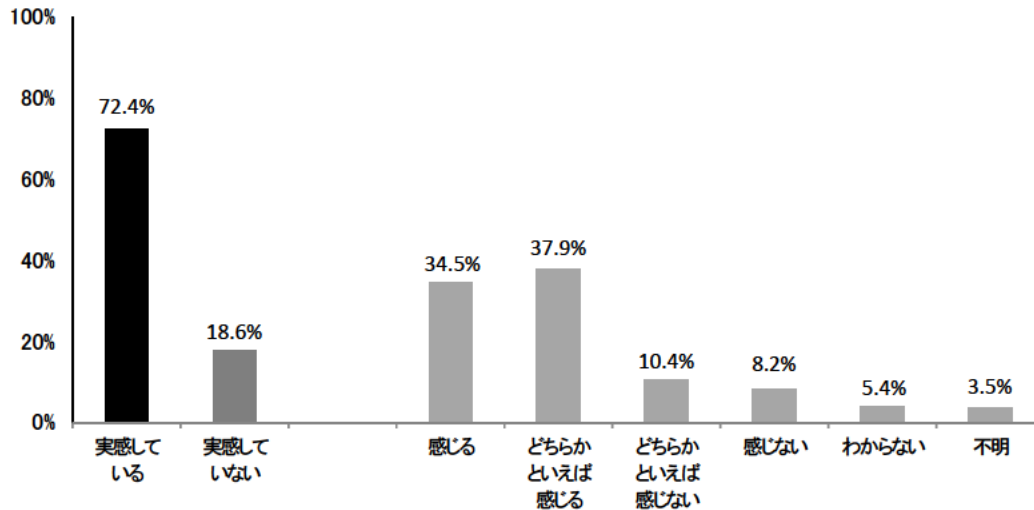
- 全体結果
 - ・ 前回調査時、第1回調査時との比較では、統計的に有意な差が認められません。
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
	女性 40代	東紀州 20代 主婦	20代 三世帯

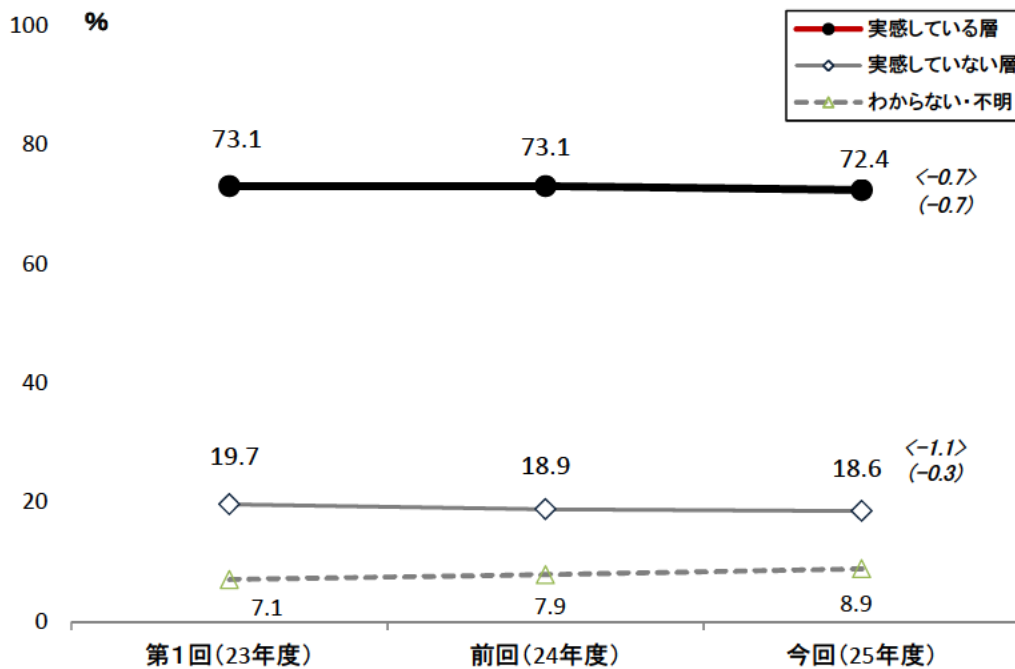
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査、前回調査、今回調査とも県全体では実感している層が7割以上であり、実感していない層の4倍近い割合となっており、その傾向に変化はありません。
- ・ 属性別に見ると、実感の強弱や実感が低くなっている属性がありますが、割合としては最低でも6割代後半となっています。また、「地域の住みやすさ」についての回答を属性別に見ると、男性、正規職員の肯定的回答の割合が高い、単独世帯、200万円未満の肯定的回答の割合が低い、など傾向が似通っている部分もありますが、年齢や地域などについては、異なる傾向となっています（83頁）。
- ・ 一方、「まちづくり、地域振興の活動への参加状況」とのクロス集計(83頁)では、実感している層の参加経験率が51.0%に対して、実感していない層の参加経験率は37.5%となっており、関係する活動への参加により実感が高くなる可能性があります。
- ・ これらのことから、住みやすい地域づくりに加えて、実際にまちづくりなどの活動への参画を支援していく取組も考えられます。

図表 2-2-19 地域や社会の状況についての実感割合(今回調査結果)(自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい)



図表 2-2-20 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい)



【備考】

- 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。
- 図表(第1回からの推移)中、()内は対前差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

1.1 文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができる（問2-11）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-21 参照）

- 『実感している層』は37.1%、『実感していない層』は46.1%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも9.0ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
伊勢志摩 女性 70歳以上 学生、専業主婦、無職 離死別 単独世帯 0～100万円	北勢 男性 20歳代、40～50歳代 正規職員 二世帯世帯 100～200万円、600万円～

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-22 参照）

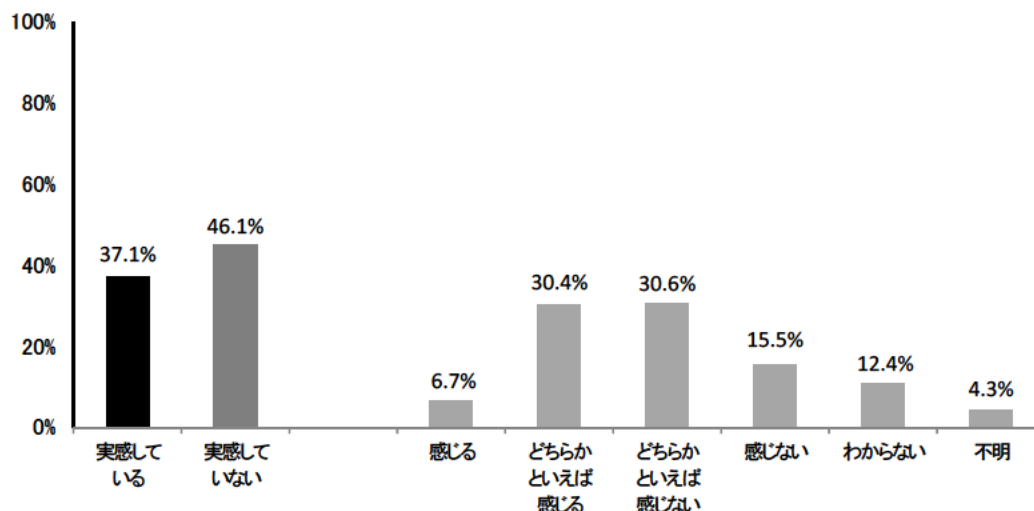
- 全体結果
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+2.3ポイント、『実感していない層』：-3.0ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
女性 30代	北勢、伊賀、伊勢志摩 女性 30代、50代 正規、パート等、学生、主婦、 無職 有配偶 一世代、二世代	中南勢	

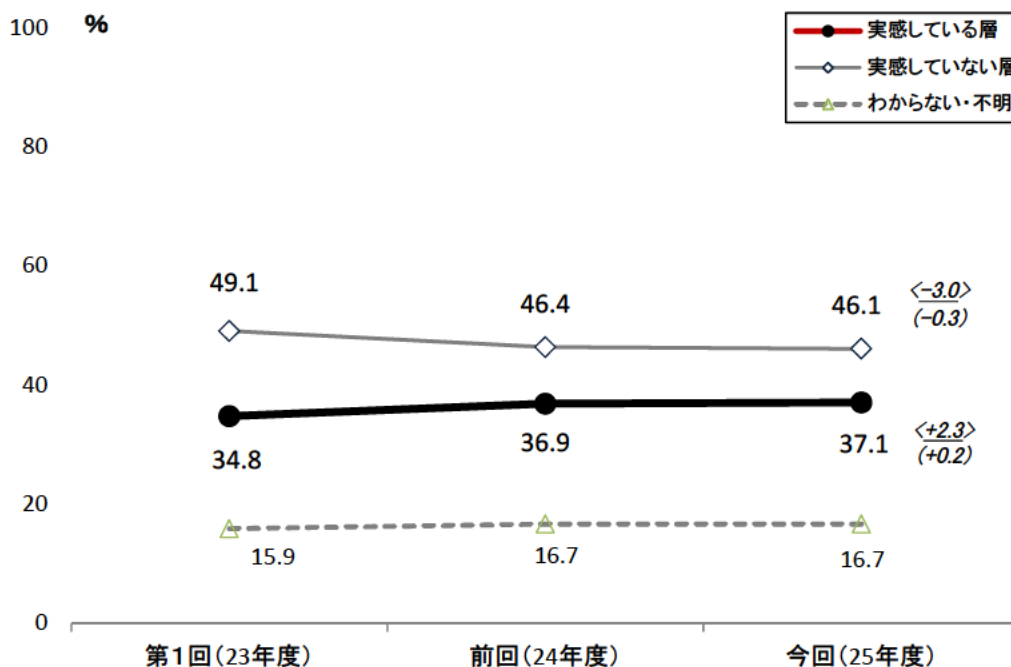
(3) 分析・考察

- ・ 県全体では、実感していない層が実感している層を上回っていますが、第1回調査時よりも実感が高くなっており、その差は第1回調査での15ポイント弱から10ポイント弱に縮まっています。
- ・ 属性別に見ると、地域、性別、年齢、職業などで実感の違いが見られますが、第1回調査時よりは多くの属性で実感が高まっています。
- ・ また、「文化芸術・趣味・娯楽活動への参加状況」とのクロス集計（84頁）では、実感している層の参加経験率が42.4%に対して、実感していない層の参加経験率は25.7%となっており、関係する活動への参加により実感が高くなる可能性があります。
- ・ 実感している層の割合が高くなるなど、一定の進捗は見られますが、北勢地域や20歳代、40～50歳代で相対的に実感している傾向が弱いことから、新たに開館した三重県総合博物館を活用するなど、様々な地域や年齢層を対象として、文化芸術や地域の歴史にふれる機会を得られるような取組も考えられます。

図表 2-2-21 地域や社会の状況についての実感割合(今回調査結果)(文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができる)



図表 2-2-22 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができる)



【備考】

- 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。
- 図表(第1回からの推移)中、()内は対前回差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

1.2 三重県産の農林水産物を買いたい（問2-12）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-23 参照）

- 『実感している層』は85.6%、『実感していない層』は7.6%です。
16項目中、『実感している層』の割合が最も高くなっています。
16項目中、『実感していない層』の割合が最も低くなっています。
- 『実感している層』が『実感していない層』より78.0ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
中南勢、伊勢志摩 女性 40歳代 正規職員、パート・アルバイト・派遣、専業主婦 有配偶 二世帯世帯、三世帯世帯 300万円～	伊賀 男性 70歳以上 自営業、無職 離死別 単独世帯 0～200万円

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-24 参照）

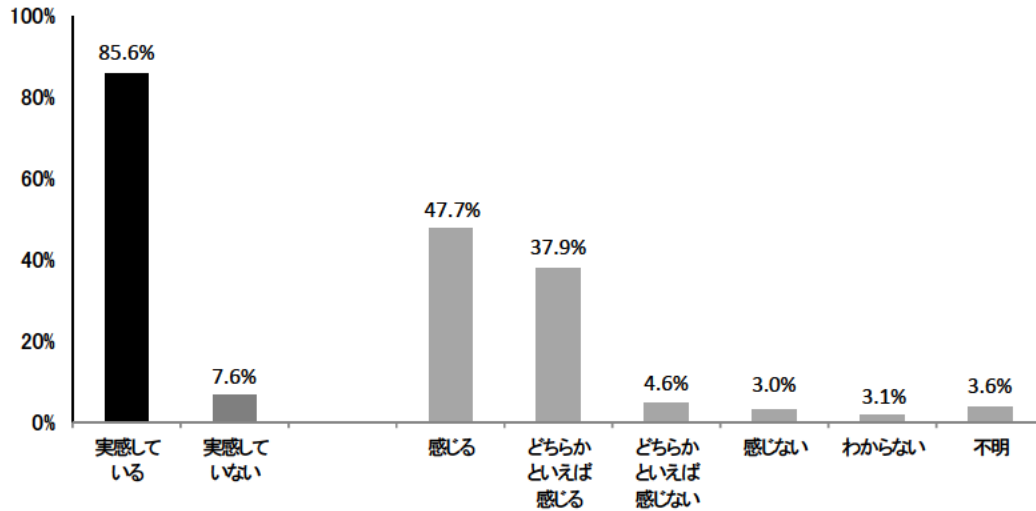
- 全体結果
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が低くなっています。
（『実感している層』：-1.8ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
正規 三世帯	中南勢	伊賀 女性 農林水産、自営、主婦 有配偶	北勢、伊賀 全性別 20代、50代、70以上 農林水産、自営

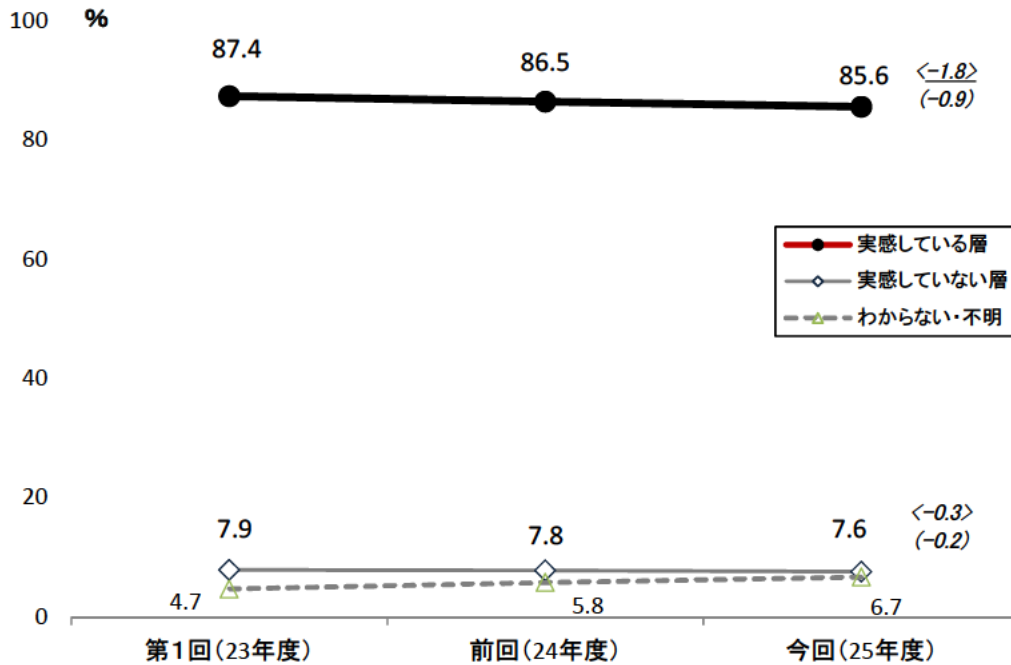
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査時よりも実感が低くなっていますが、第1回から第3回まで実感している層の割合が8割以上、実感していない層の割合が1割未満であり、16項目中で実感している割合が最も高く、実感していない割合が最も低くなっています。
- ・ 属性別に見ると、地域、性別、世帯年収などによる違いは見られますが、大半の属性項目で実感している層の割合が8割を超えています。実感している層の割合が7割台となっている属性は、世帯収入200万円未満、単独世帯のみであり、食材の購入にあたり、金額をより重視している可能性があります。
- ・ 8割を超える高い実感を維持向上させていくためにも、引き続き、安全安心な三重県産の農林水産物を県民の皆さんに安定的に供給できるように取り組むとともに、県民の皆さんのニーズに応えた商品の開発や情報発信の強化などに取り組んでいくことが必要と考えられます。

図表 2-2-23 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（三重県産の農林水産物を買いたい）



図表 2-2-24 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(三重県産の農林水産物を買いたい)



【備考】

- 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前回差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

1.3 県内の産業活動が活発である（問2-13）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-25参照）

- 『実感している層』は34.9%、『実感していない層』は45.5%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも10.6ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
北勢 女性 70歳以上 専業主婦、無職 0～100万円、400～500万円、600～800万円	伊賀、中南勢、伊勢志摩、東紀州 男性 50～60歳代 正規職員 100～200万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-26参照）

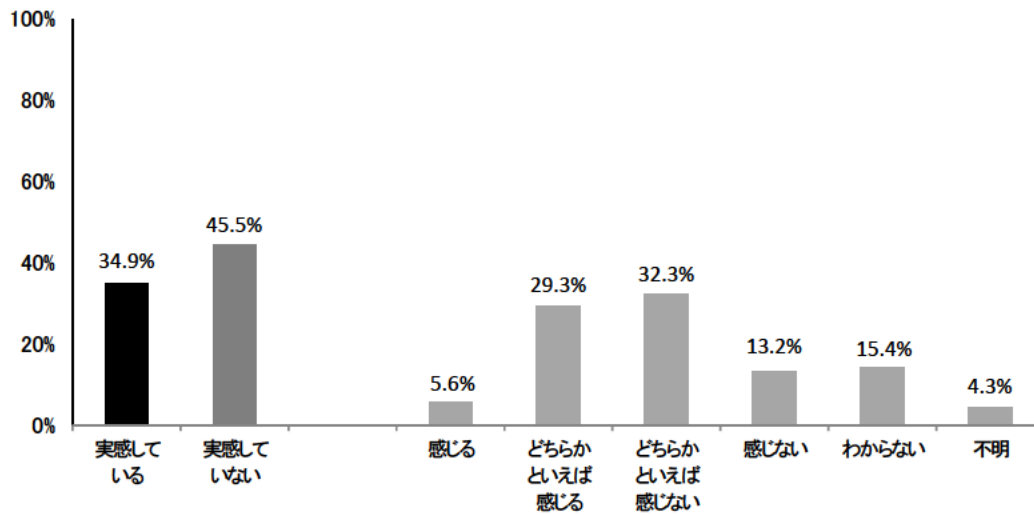
- 全体結果
 - ・ 前回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+6.3ポイント、『実感していない層』：-6.7ポイント）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+7.1ポイント、『実感していない層』：-8.6ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
北勢、中南勢、伊勢志摩	東紀州除く各地域		
全性別	全性別		
全年齢層	全年齢層		
全職業	農林水産除く各職業		
全配偶関係	全配偶関係		
全世帯類型	全世帯類型		

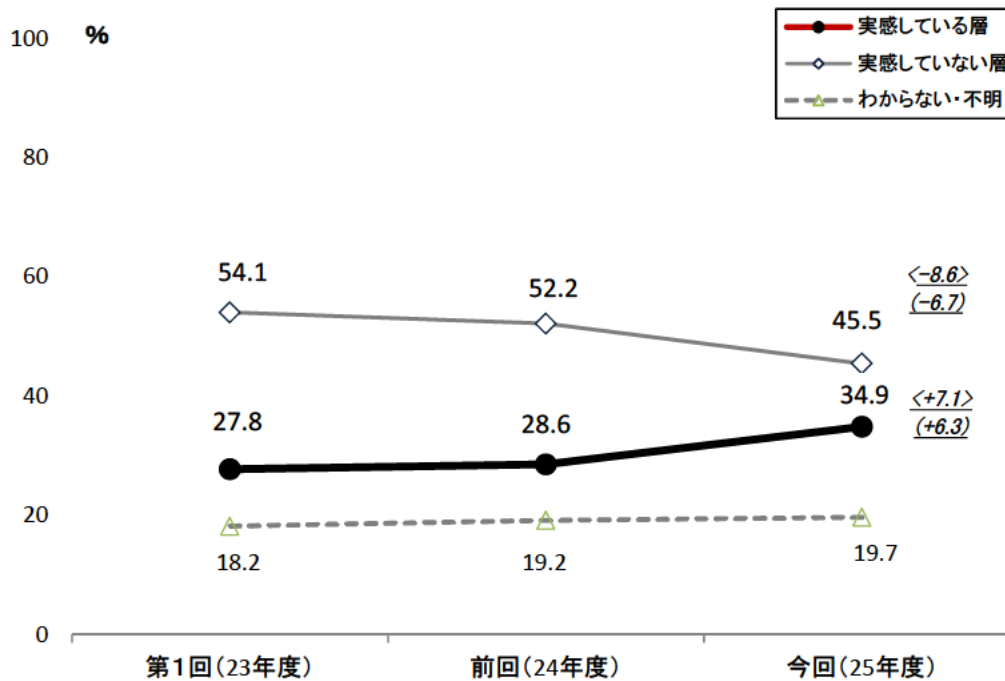
(3) 分析・考察

- ・ 県全体では第1回調査時、前回調査時よりも実感が高くなり、依然として実感していない層が実感している層を上回っているものの、その差は第1回調査の25ポイント程度から10ポイント強まで縮まっています。
- ・ 属性別に見ると、北勢地域で実感している傾向が強く、それ以外の地域との実感の差が見られます。また、第1回調査時、前回調査時よりもほとんどの属性で実感が高くなっていますが、東紀州地域は実感が高くなっておらず、伊賀地域は前回調査時よりも実感が高くなっていません。
- ・ 県全体では、平成25年度の県内への企業誘致件数が65件と、過去4年間の実績に比べて大きく増加するなどの成果が影響している可能性があります。
- ・ 今後、実感の高まりが県内全ての地域に広がるようにするため、県内企業の大半を占め、地域の経済や暮らしを支え、コミュニティの中核的役割を担っている中小企業・小規模企業に対してきめ細かな支援を行い、県民生活の向上や産業の活性化につなげていく必要があると考えられます。
- ・ また、20歳代、学生については、実感が高くはなっていますが、他の年齢階層や職業に比べて伸びが鈍い傾向にあり、本県の将来を担う若者に県内産業の魅力をより一層伝えていく必要があると考えられます。

図表 2-2-25 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（県内の産業活動が活発である）



図表 2-2-26 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(県内の産業活動が活発である)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 7 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前回は、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

1.4 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている（問2-14）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-27 参照）

- 『実感している層』は18.5%、『実感していない層』は65.2%です。
16項目中、『実感している層』が最も低くなっています。
16項目中、『実感していない層』が最も高くなっています。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも46.7ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
北勢 女性 30歳代、70歳以上 農林水産業、正規職員（実感層が高い）、無職	伊賀、伊勢志摩、東紀州 男性 50～60歳代 正規職員（非実感層が高い）、パート・バイト・派遣、専業主婦
離死別 単独世帯 0～100万円、600万円～	二世帯世帯 100～300万円、400～500万円

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-28 参照）

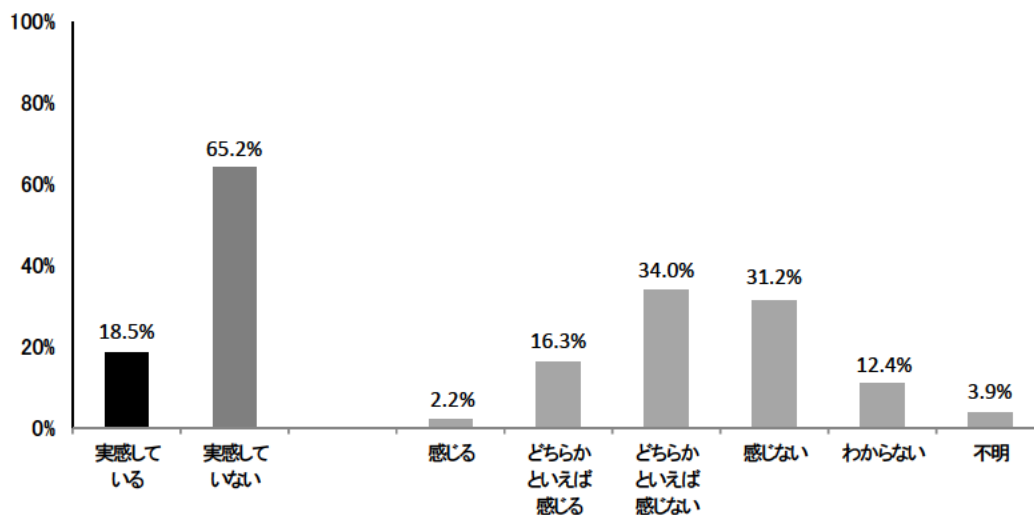
- 全体結果
 - ・ 前回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+3.2ポイント、『実感していない層』：-4.6ポイント）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+4.8ポイント、『実感していない層』：-7.5ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
北勢、中南勢、伊勢志摩 全性別 30～50代 正規、パート等、無職	東紀州除く各地域 全性別 30以上 自営、正規、パート等、主婦、無職		
未婚、有配偶 全世帯類型	全配偶関係 全世帯類型		

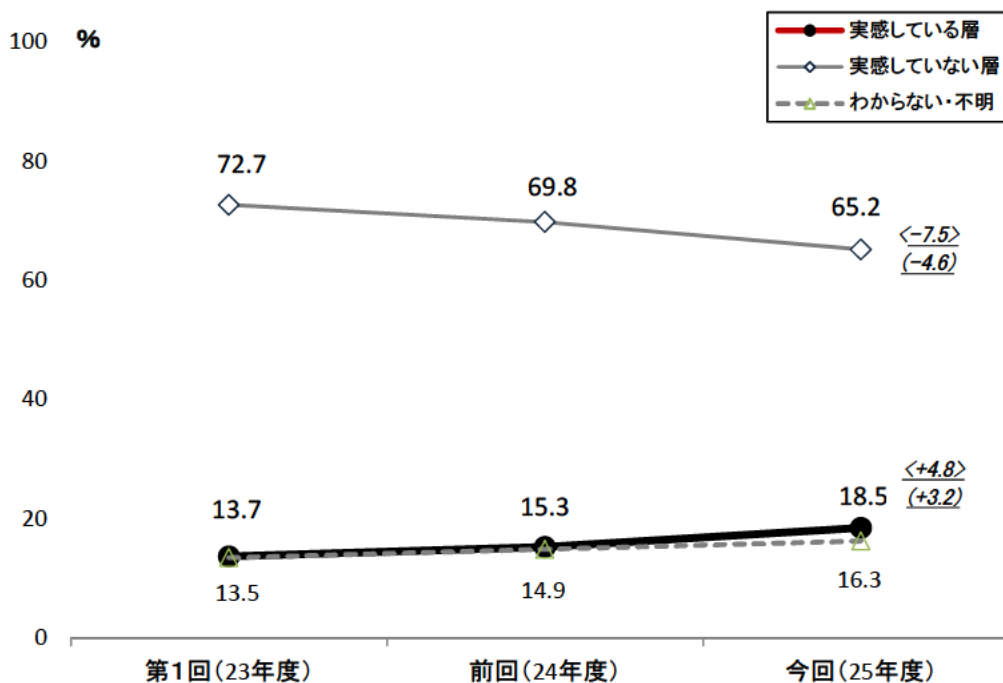
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査時、前回調査時よりも県全体で実感が高くなっていますが、実感していない層が実感している層の3.5倍程度と大きく上回っています。
- ・ 属性別に見ると、全体と同様に多くの属性で第1回調査時、前回調査時よりも実感が高くなっており、職業別では、正規職員、パート・バイト・派遣社員など、雇用労働者の実感が前回調査時よりも高くなっています。一方、地域別では、北勢地域の実感が強く、それ以外の地域との差があり、第1回調査時、前回調査時からの推移を見ても、東紀州地域では実感が高くなっていません。
- ・ 地域別の実感の傾向を見ると「県内の産業活動が活発である（問2-13）」と同様の傾向が見られ、産業振興施策の推進によって、この項目の実感も高めることにつながることがあります。
- ・ 全体として実感を高めていくためには、県内各地において産業を一層活発にするための取組を進めるとともに、企業と求職者とのマッチングや人材育成などにも引き続き取り組んでいくことが必要と考えられます。

図表 2-2-27 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている）



図表 2-2-28 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 7 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前回は、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

1.5 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる（問2-15）

(1) 今回調査結果の概要（図表 2-2-29 参照）

- 『実感している層』は32.8%、『実感していない層』は48.8%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも16.0ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
伊勢志摩 女性 70歳以上 専業主婦、無職 離死別 単独世帯 0～100万円、500～600万円	北勢、伊賀、東紀州 男性 40歳代、60歳代 正規職員 二世帯世帯 100～200万円、1000万円～

(2) 第1回調査からの推移（図表 2-2-30 参照）

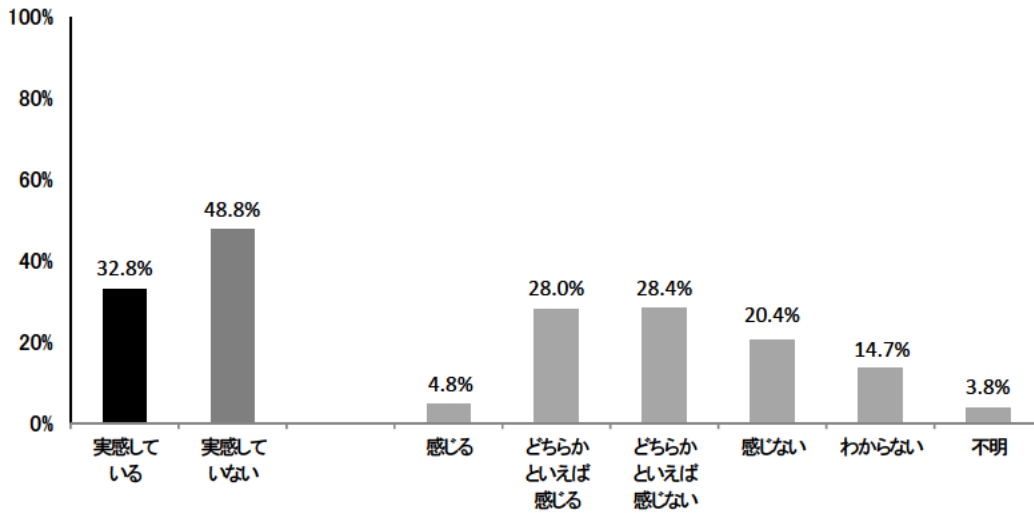
- 全体結果
 - ・ 前回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+11.8ポイント、『実感していない層』：-9.8ポイント）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+15.5ポイント、『実感していない層』：-15.4ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
全地域	全地域		
全性別	全性別		
全年齢層	全年齢層		
全職業	全職業		
全配偶関係	全配偶関係		
全世帯類型	全世帯類型		

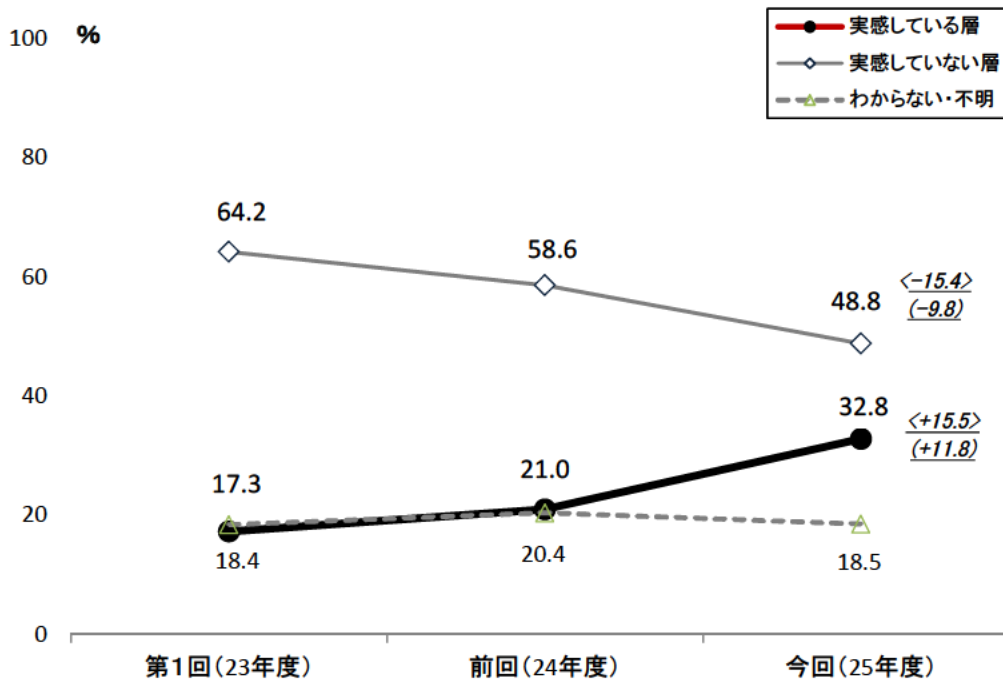
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査時、前回調査時よりも県全体で実感が高くなっており、依然として実感していない層が実感している層を上回っているものの、その差は第1回調査の50ポイント弱から15ポイント程度まで縮まっています。
- ・ 属性別に見ても、第1回調査時、前回調査時よりも全ての属性で実感が高くなっていますが、特に、伊勢志摩地域では、実感している層が第1回調査での17.3%から40.3%と倍以上に増え、他地域よりも実感している傾向が強くなっています。
- ・ これらのことから、「神宮式年遷宮」を契機として伊勢神宮周辺を中心に三重県への注目が高まったこと、また、平成25年4月からの「三重県観光キャンペーン～実はそれ、ぜんぶ三重なんです！～」首都圏営業拠点「三重テラス」のオープンなどによる三重の魅力発信が、実感の高まりにつながったと思われます。
- ・ この傾向を一時的なものとして定着させるためには、熊野古道世界遺産登録10周年などの好機を活用した観光誘客や国内外への情報発信の強化などに引き続き取り組んでいく必要があります。

図表 2-2-29 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる）



図表 2-2-30 地域や社会の状況についての実感割合（第1回調査からの推移）（国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる）



【備考】

- 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前回差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

16 道路や公共交通機関等が整っている（問2-16）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-31参照）

- 『実感している層』は40.3%、『実感していない層』は52.6%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも12.3ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
北勢 70歳以上 学生、無職 0～100万円、300～400万円	伊賀 男性 50歳代 正規職員

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-32参照）

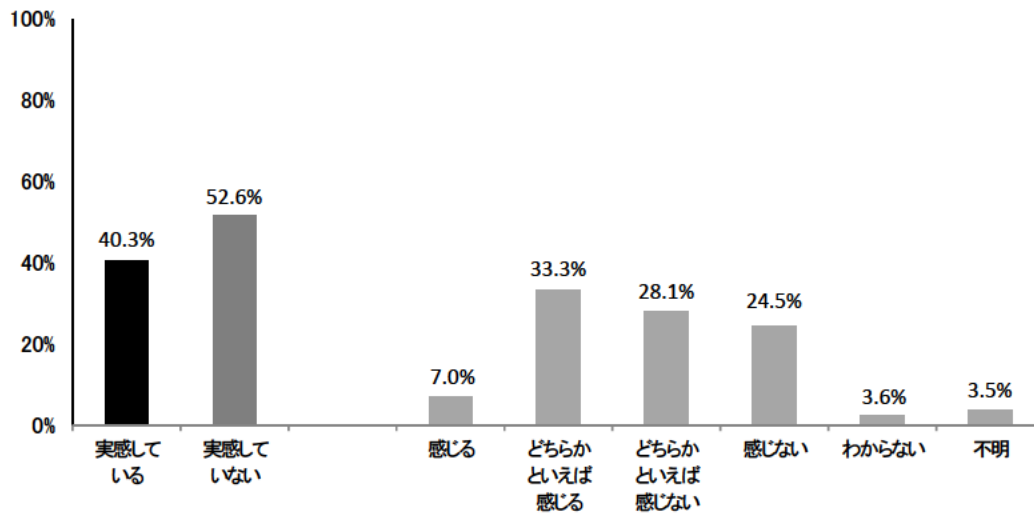
- 全体結果
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+2.8ポイント、『実感していない層』：-3.3ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
東紀州	伊勢志摩、東紀州 全性別 30～40代、60以上 パート等、主婦、無職 有配偶 一世代	自営 三世代	

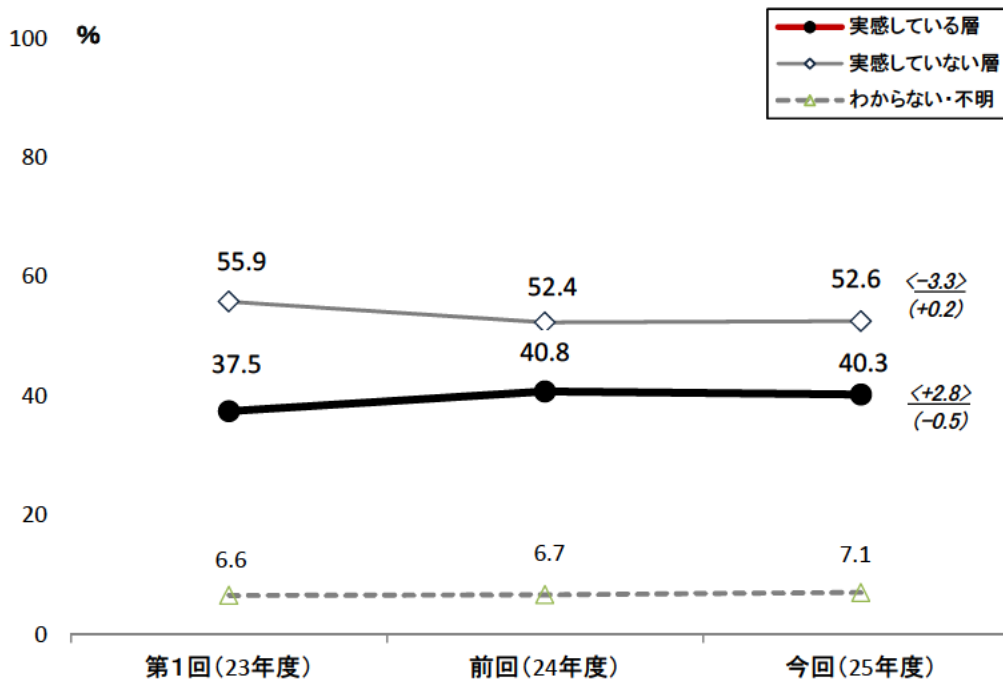
(3) 分析・考察

- ・ 県全体では、実感していない層が実感している層を10ポイント以上上回っていますが、第1回調査時よりも実感が高くなっており、その差は縮まっています。
- ・ 属性別に見ると、第1回調査時よりも多くの属性で実感が高くなっていますが、特に、東紀州地域では、実感している層が第1回調査での18.7%から39.3%と倍以上に増えています。また、今回調査結果を地域別で見ると、北勢地域で実感している傾向が強く、伊賀地域で弱くなっています。
- ・ 東紀州地域で実感が高くなったのは、「熊野尾鷲道路（三木里～熊野大泊）」や「紀勢自動車道（紀伊長島～海山）」の供用開始など、幹線道路等の整備が進んだことが影響していると思われます。また、北勢地域での実感の強さ、伊賀地域での弱さについては、鉄道等の公共交通の状況が影響している可能性もあります。
- ・ 全体としては実感していない層が実感している層を上回っている状況であり、利便性だけではなく災害時の緊急輸送や代替ルートの確保にもつながる道路整備や高齢者の移動手段として重要な役割を担うバスや鉄道等の公共交通の維持・確保が求められているものと思われます。

図表 2-2-31 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（道路や公共交通機関等が整っている）



図表 2-2-32 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(道路や公共交通機関等が整っている)



【備考】

- 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。
- 図表（第1回からの推移）中、（ ）内は対前回差、< >内は対第1回差を記載。いずれも、危険率5%未満で統計的に有意な差があるものには下線を付けている。

